

スポーツ

ライスボウルで優勝した
オービックのヘッドコーチ

大橋 誠 さん



意識変化 粘り強く

3日に行われたアメリカンフットボール日本選手権「ライスボウル」で、習志野市を本拠地とする「オービックシーガルズ」が、社会人チームとして歴代最多タイとなる4度目の日本一に輝いた。大橋誠ヘッドコーチ(45)は写真に今季の戦いぶりや来季に向けての抱負を聞いた。

(大森祐香)

—今季のチーム作りで

「チームのあり方を見直したことで、どんな効果があったか。」
「選手がいてチームがある。自分がいるからチームがあるという意識が徐々に浸透した。主体的、能動的に取り組むようになり、試合での粘り強さが増した。ラスト1秒で迎えたピンチを食い止めたこともあり、『あきらめずにやれば、結果が出る』という自信につ

ながった」
—来季に向けての抱負を。
「今季のチームを超えることだけに焦点を合わせ、ゼロからチームづくりをする。選手が必死になって取り組める目標を設定しなければ、チームに成長はない。新しいやり方をみんなで模索していく」
—地元との交流の仕方について、どう考えるか。
「自分たちのアメフトを見て、元気がなったり、ワクワクしたりしてほしい。今季から試合後に球場外でファンとふれあう機会を設けたが、『応援してるぞ』などと熱のこもった言葉をもらった。誰かに影響を与えているという実感から、自分たちもワクワクした。今後も交流イベントを増やし、地域の人々に愛されるチームを目指す」

心がけたことは。
「チームのあり方を根本から見直した。選手一人ひとりが自分自身の目標を定め、実現に向けて練習に取り組んだ。選手たちは別々の会社で働いており、週2回の練習以外は強制できない。一人ひとりの意識を高めることで、選手は大きく成長した」

ながった」
—来季に向けての抱負を。
「今季のチームを超えることだけに焦点を合わせ、ゼロからチームづくりをする。選手が必死になって取り組める目標を設定しなければ、チームに成長はない。新しいやり方をみんなで模索していく」
—地元との交流の仕方について、どう考えるか。
「自分たちのアメフトを見て、元気がなったり、ワクワクしたりしてほしい。今季から試合後に球場外でファンとふれあう機会を設けたが、『応援してるぞ』などと熱のこもった言葉をもらった。誰かに影響を与えているという実感から、自分たちもワクワクした。今後も交流イベントを増やし、地域の人々に愛されるチームを目指す」